

## ■所信表明

平成19年5月に第16代会頭に推挙頂いて以来、約6年6ヶ月が経過した。世界経済が不安定な中、2度にわたる政権交代があり、未曾有の東日本大震災が発生するなど、まさに人間の価値観や、社会構造そのものが大きく変わらざるを得ない激動の6年間だった。私は、持論として「高い文化と学術を有する創造的都市は、その時代の産業に革新を起こす」と繰り返し述べている。社会が大きく変化し、新たな社会課題が生まれる時代の中で、人々の感性や価値観、或いは新たな社会構造の中で顕在化してきたニーズを、京都が持つ昔からの生活の知恵や産学公連携による知恵のインフラをベースに解決していくことが中小企業の成長の原動力になる。

ビジョンのファーストステージでは、知恵ビジネスの「啓発・育成・発展」、セカンドステージでは知恵ビジネスの「誘発」をテーマに掲げ、小さくともキラリと光る会員事業者の支援を進めてきた。また、京都府、京都市、本所と京都工業会で「京都産業育成コンソーシアム」を設立し、オール京都で知恵産業を育成支援する体制も整えることができた。京都産業育成コンソーシアムでは、京商の知恵ビジネスの対象企業に加え、これまでの京都府・京都市の知恵関連の助成・認証を受けている企業は800社程度であると試算している。11月1日に開催した「知恵ビジネスメッセ」を通じて、知恵ビジネスのすそ野の広がりも感じている。

知恵ビジネスを中心とした中小企業の成長支援の継続・強化・充実、京都経済百年の計として現在検討を進めている「京都経済センター」の実現、「京都の未来を考える懇話会」で策定した「京都ビジョン2040」に向けての始動、行政との更なる連携の強化など、まだやり残している課題もいくつかある。更にはリニア新幹線の大阪までの同時開通や京都駅ルートの実現に向けた要望など、国や行政への提言・要望活動も強化していく必要がある。そういった課題の解決に向けて、引き続き会頭として、全力で取り組もうと決意した。政府の成長戦略の中身の取り組みをサードステージの背景にして、これまでのビジョンを継承しながら、飛躍的な知恵ビジネスの集積や、会員企業のさらなる成長に向けて、攻めの取り組みを加速させたい。

サードステージでは、アメリカの小さな都市・リトルトンで行われている産業育成施策である「エコノミックガーデニング」の手法を倣い、京都産業の姿を「知恵産業の森」で表現した。知恵ビジネス支援においては、これまでの施策を定着・加速させるとともに、知恵ビジネスが次々と生まれ育ち、連鎖反応が起こる「知恵の連鎖」を、サードステージのコンセプトとして支援施策を展開していく。

イタリアの経済学者であるパレートが発見した『80:20の法則』を知恵ビジネスに当てはめ、本所会員企業の20%を知恵ビジネスと呼ぶことが出来れば、京都産業の成長はその2割の企業が牽引していくことになる。様々な産業分野で、歴史や文化、生活から生まれた京都の知恵、産学公連携による知恵から生まれる新たな製品、サービスなどは既に数多く存在するはずだ。また、オール京都で取り組む京都産業育成コンソーシアムを中心として、知恵ビジネスが自発的に生まれる環境整備と人づくりを行うことによって、今まで以上の広がりを見せることになると期待もしている。「知恵の連鎖」を生み出し、会員数の20%余りが知恵ビジネスと呼べる京都経済を目指して、サードステージの「重点事業プラン」を中心に取り組んでいきたい。

本所では12年ぶりに1万2千会員を突破した。商工会議所の活性化には、組織の根幹である会員事業所の声を事業に反映させていくことが何より必要であり、私はこれからもボトムアップ型の会議所運営を大切にしたい。

## ■副会頭紹介

6名の副会頭を紹介する。

京都銀行・代表取締役会長の柏原康夫さん、ワコールホールディングス・代表取締役社長の塚本能交さん、堀場製作所・代表取締役会長兼社長の堀場厚さん、島津製作所・代表取締役会長の服部重彦さん、以上の方々には留任いただいた。

新たに、副会頭をお願いするのは、フクナガ・代表取締役会長の福永晃三さん、京セラ・代表取締役会長の久芳徹夫さんの2名である。

福永さんは、前期、国際交流特別委員長や、京商クリエイティブビジネス研究会委員長をお務めいただき、アジアビジネス支援体制の充実やクリエイティブ産業の振興などに取り組んでいただいた。これまでも、観光・運輸部会長をお務めいただくなど、観光・ブランド・国際と幅広い分野で本所事業にご尽力いただいております、副会頭に選任させていただきました。

久芳さんは、川村前副会頭の後を受け、これからの本所事業の推進に向けて、これまで培ってこられたご見識と経営手腕を大いに発揮されることを期待して、副会頭に選任させていただきました。これまで副会頭として尽力いただき退任された渡邊隆夫さんには、監事にご就任いただき、川村誠さんにおかれては、名誉議員にご就任いただく。

また、専務理事については、奥原恒興さんに引き続きお願いする。

## 記者からの質問事項

### ■重点事業16項目のなかで、「これは！」というのがあれば教えてほしい。

(立石会頭)

優先順位をつけることは難しい。基本的には、これまで取り組んできた知恵ビジネスの更なる育成・継続、強化・充実を第一に考えたい。また、京都経済百年の計である「京都経済センター」構想の実現に取り組んでまいりたい。それから、「京都の未来を考える懇話会」でまとめた「京都ビジョン2040」について、京都のありたい姿として「世界交流首都・京都」の実現に向けた施策を行政・学界と連携して取り組んでいきたい。

### ■これまでを振り返り、成果と課題としてこれから取り組みたい点を教えてほしい。

(立石会頭)

セカンドステージでは知恵ビジネスの誘発をコンセプトに取り組んできた。成果の1つめに、知恵ビジネスプランコンテストをはじめとして、ビジネスシーズの発掘から育成・成長に至るまでの個別の知恵ビジネスの創出サイクルを作り上げ、知恵ビジネスのすそ野の広がりができてきた。

2つめに、京都府や市に「知恵産業」を理解いただき、京都産業育成コンソーシアムの設立などを通じて、中小企業にとって分かりやすく、利用しやすい支援施策の整理や共同化に取り組み、知恵ビジネスの創出サイクルをオール京都で組織的に支える仕組みを整えた。

課題というよりは、知恵ビジネスを「産業群」として集積させるために、知恵ビジネスの優位性への理解がさらに深まり、自律的に次々と知恵ビジネスが生まれ育つ環境作りが必要だ。京商が深く関わる知恵ビジネス育成も大事だが、量を生み出す面で限界がある。本所の取り組みを継続・定着させることはもちろん、誰もが知恵ビジネスや新たな顧客創造に挑戦できるような施策やプロジェクトが展開されるように、オール京都の支援環境をより一層整えていきたい。そのためにも、経営支援機能を集約する「京都経済センター」の実現を大いに期待しており、これも課題と考えている。

### ■経済センターの実現に向けて、3年後の到達点はどのあたりか。

(立石会頭)

サードステージの中で方向性が決定するのが私の期待するところである。これまで、京都経済センター建設検討委員会を設け議論をすすめてきたが、予定地の土地・建物には多くの関係者がおられ、調整に多少時間がかかっている。併せて、資金面、運営面等の事業スキームについても、さらに掘り下げて検討を進めていかなければならない。

できるだけ早期の実現をめざし、京都府・市の支援をいただきながら、まとめあげていきたい。関係機関が集約されるだけでなく、利用者へのワンストップの最適なサービスを提供できるように、入居団体が目的別に設置できれば、行政からの支援をより一層受けることができると思う。

以上